

1：空間



なぜ空間に気を配るのか

働く環境は、チームの成果に対して多大な影響を与えます。デザイン・プロジェクトを通じて、チームは様々な異なる状況の中で活動します。望ましい行動が、あらゆる状況において促されるよう環境を作り上げる必要があります。

どのように気を配るか

基本的な態度：様々な状況を想定し、メンバーとメンバー／チームと対象物の関係が、空間的に好ましい状態となるようにします。どんな姿勢がどんな影響をチームのエネルギーに与えるか考慮しましょう。例えば、ホワイトボードや壁面を気軽に使えるようにすることで、チームの誰もが動きやすい環境をつくります。例・・・視線をデザインする：フィールドワークの結果を共有する時のように、互いの顔が見えることを優先しますか？それとも着眼点（POV：Point Of View）を発展させるときのように、みんなの視界にホワイトボードが入ることを優先しますか？

現場の情報共有：ワークスペースを現場の情報で満たすことは、各自の考えや発見を表現する行為と言えます。デザインプロジェクトにおいてチームが素早く行動するために、進捗状況を管理・把握できるよう空間を利用します。例えば、ファシリテーターが情報共有をうながし、情報を階層化させ、関連性のある内容をグルーピングします。そして、活動の重要な指標になりうるものを強調します。また、視覚的な情報の把握を試みることで、ホワイトボード上にまとめられた内容がチームの財産となります。視覚化させることで、人間が持つ短期記憶の上限を気にすること無く、現場から得られた知見を比較・再起・統合できるようになります。

環境：音や光、雰囲気はもちろん、「なんとなくの感じ」も含めた全てのことがチームに影響を与えます。望んでいる行動を増やすために、どうやって環境を扱うべきか考えましょう。そして、デザインプロセスの状況に応じて、異なる環境をつくるようにします。

2：推進力



なぜ推進力に気を配るのか

プロジェクトの構造や意思決定のみならず、ファシリテーターにはチームがプロジェクトから刺激を得られる状態を維持する重大な責任があります。チームの化学反応と推進力が、チーム活動の成功における重要な側面を担っています。プロジェクトの発展と成功は、チームと共に創り出す推進力にかかっているのです。

どうやって気を配るか

推進力を生み出し維持する：チームに対して刺激を与えるために、メンバーを駆り立てたり、制約をうまく活用したり、チームが関わる時間を丁寧に計画したりしましょう。ファシリテーターは、必要となるダイナミックな行動に基づいて、チームの基準を設定します。

行動第一：デザイン思考を活用する際の原則的な態度は、何よりも行動を重視することです。計画づくりや議論をするよりも重要なのは、プロジェクトを活発に前進させる「行動」です。行動第一の原則によって困難な状況が生まれるのは、チーム内で異なる意見が出た時です。唯一の方法や確実な成果を得ようとするよりも、プロジェクトを常に前進させることへメンバーが合意するよう促します。希望すればいつでも前のプロセスに戻れると認識しましょう。

魅力的なセッションをつくる：ファシリテーターは自身の考えをグループワークのデザインに落とし込みます。使うツールの計画やワークスペースを選んで準備し、どうすればセッションが効果的で楽しいものになるかを考えます。必要としている繰り返しの行動を促すために強制力として締切を活用しましょう。また、セッションで誰がどの程度貢献したかその割合を記しておきます。プロジェクト活動そのものだけでなく、グループのパフォーマンスとエネルギーをマネジメントするためです。



3：安心感



なぜ安心感に気を配るのか

コラボレーションを行う際、創造的な活動はその他の活動とは異なる方法でチームに関わることをメンバーに要求します。デザイン活動における空間や活動そのものの曖昧さが、チーム同士に信頼を要求し、時に職場の人間関係をギスギスさせますだからこそ、デザインリーダーは心地よい人間関係の構築と維持に気を配る必要があるのです。

どうやって気を配るか

模範として行動する:公平かつ寛容であり、心を開いた素直な状態です。例えば、リスクをとる、何かを始める、エネルギーをもたらす、ミスを認める、フィードバックを求めるなどです。

フィードバックの共有と承認:人間関係を維持する最も重要な方法は、建設的なフィードバックの文化を求め続けることです。自らフィードバックをしたり、具体的なフィードバックをメンバーに求めたりする受容的な態度によって、メンバーも気軽に提案ができるようになります。

メンバーの誰もが、自由に自分の意見を語り合う状態を推奨しましょう。チームのコラボレーション能力を最大化させるために、チーム全員が関わり合って互いの意見に耳を傾けるようにします。

違いを認め敬意を示す:コラボレーション活動から得られるメリットは、多様な視点による相乗効果の発揮です。メリットが保たれるように、活発に活動しましょう。例えば、あまり喋らないメンバー（もしくは若いメンバー）の考えをうまく引き出すように注意を払います。建設的な異論・反論を口にしやすい文化をつくりましょう。